



日本聖書神学校 学 報

Japan Biblical Theological Seminary

〒161-0033 東京都新宿区下落合 3-14-16・☎03-3951-1101 ~ 2・Email: jbtbs@jbtbs.ac.jp

2026 年 9 月 15 日

第 182 号

発行人 神 保 望

【後援会献金口座】

郵便振替:

00110-3-6435

加入者名:

学校法人聖経学園

日本聖書神学校

今号の内容

巻頭言	1
2026 年度新入生の声	2-3
創立 80 周年記念行事	4
献身志願者の集い報告	5
決算報告	5
学事報告・個人消息	6

【巻頭言】

気付きの機会

教 授 荒瀬牧彦



私は 1987 年春に、多くが 20 代 30 代であった同級生たちと神学校を出ました。その頃、新米伝道者たちを受け入れてくれた諸教会の状況を振り返ると、この 40 年弱の間に随分と大きな変化が起きていると感じざるを得ません。当時は、深い信仰に根差してというより世の勢いに乗って、右肩上がりの数的成長があるという前提、拡大はどこまでも続くという空気がありました。少なくとも自分はその中にいました。今は、大幅な教勢の減衰という現実には誰もが直面しています。本校も、厳しい状況の中に卒業生たちを送り出しています。しかし、神学生や最近の卒業生たちには、甘くはない現実をしっかりと弁えた上で、意欲に満ちて（もちろん内には不安を抱えつつでしょうが）それぞれの特徴や持ち味を活かした宣教へと向かっていく元気な姿を見ることができ、励まされています。ですから、送り出す神学校の側も、一昔前の教会の体制や社会と人間の在り様に合わせて構築された神学教育を漫然と続けるのではなく、絶えず中身を見直し、現在と近未来の宣教の必要を意識した学び方を用意していかねば、と思うのです。向こう数十年は続くであろう人手不足や財政縮小を引き受けつつ、なお教会と宣教を健やかに担っていくためには、しなやかさ、したたかさ、しぶとさが必要でしょう。

我々の直面している変化は、困難への突入であると同時に、気付きの機会でもあります。使徒言行録 16 章は、「来てください」と懇願するマケドニア人に応えて、パウロたちが海を渡っていった経緯を語りますが、あの時彼らの宣教は順調に展開していたわけではなく、むしろ、行き詰まった局面にありました。「アジア州で御言葉を語ることを聖霊から禁じられたので、フリギア・ガラテヤ地方を通って行った」のですし、「ビティニア州に入ろうとしたが、イエスの霊がそれを許さなかった」のです。何らかの支障によって北上できず、西へ追いやられる形で、この先は海だという港町トロアスに辿り着いた——まさにその場で幻を見たのです。

あの懇願は特定の一個人のものというより、多くの人々の内なる魂の叫びが集合人格化したもののようです。また、特定の誰かに向けてではなく、ましてや名も知らないパウロ個人に依頼したものではない。どこへ届くのかわからぬまま、声なく発せられていた叫び。それを唯一受け止めたのが、トロアス滞在中のパウロだったのです。叫びは四方に響いていた。でもその声を受け止め、そこに使命を見出し、動き出したのが彼でした。そして、その召しを共有した同行者たちでした。

なぜパウロは宛先も形も定かでない叫びを聴けたのか。彼にアンテナが立っていたということが先ずあるでしょう。福音を伝えたいという熱意に溢れ、どこに行くべきかを考え続けていた。それが感度の良いアンテナを備えました。でも、そんな彼でも、トロアスへと誘導されていなければ、叫びは届かなかったでしょう。計画通りアジア州での宣教が進んでいたらキャッチできなかったでしょう。神様によるお膳立てがあったからこそその幻の受信であり、ヨーロッパへの渡航だったのです。

気付くのは人が自分ですること。しかし、気付くということは、どこに置かれたかということが関係する。そこには神の采配がある。つまり、「気付く」ことの中に二つのことが起こっているのです。

人員や予算の縮小は、今まで可能だったことが不可能になるということであり、残念に思うことはいろいろとあります。しかし、同時に、そうなったがゆえに聞こえるようになる叫びがあるのではないのでしょうか。ダウンサイジングして小さくなる現実があります。でもその小ささのゆえに気付けるようになることが必ずあるはずです。人のアンテナと神の采配があって気付きが生まれます。大事なのは、その気付きを軽んじないこと、気付きに従って行動することです。しなやかに、したたかに、そしてしぶとく進んでいきたいものです。

新入生の声

神学校に入学してみても

今田裕之（日本基督教団深川教会）

私は聖書を学ぶことが好きです。また学んだことを人に伝えることも好きなので神学校に入学しました。神学校に入ることによって、神様のことを考える時間が増えました。今までは、平日は仕事中心で職場で発生した悩みなどが頭の中を占めることが多かったのですが、入学後は仕事が終わったらすぐに学校が始まり、悩む時間が少なくなりました。

神学校の授業では「神様はどういう方なのか」「キリストの福音とは何か」ということをよく考えさせられます。この作業はエマオの道でイエス様が弟子たちに御言葉を説き明かした時のように、私の心を熱く燃やします。そのような時が、神学校で最も楽しい時です。

所属教会の牧師には「私たちの心は神学校生活の中で、たびたび砕かれる」と教えられました。私も神学校に通う中で、自分の足りなさを感じ落ち込むことがよくあります。でも「信仰者として、1番になりたい」と思うってしまう自分にとって、よい薬になっているのではないかと思います。

向こう岸へ渡ろう

位田有香（日本基督教団和泉多摩川教会）

今年四月、日本聖書神学校に入学してから、あっという間に数か月が過ぎました。授業で初めて触れる神学の言葉に戸惑ったり、ギリシャ語と格闘したり、説教を前に聖書の言葉から離れられなくなったりと、これまでとは違う毎日を過ごしています。

私が献身を考えるようになったきっかけの一つに、イエスが弟子たちに語られた「向こう岸へ渡ろう」という言葉があります。その先に何があるのか分からなくても、主が先に立っておられるなら、舟に乗ってみたい。その思いでここまで来ました。

実際に入学してみると、分からないことばかりです。自分に牧師が務まるのだろうかと思うこともあります。それでも、授業や礼拝、先生方や仲間との交わり、そして教会での奉仕を通して、少しずつ「召されて学ぶ」ということを教えられています。

まだ舟に乗ったばかりです。この神学校で聖書と向き合い、人と出会い、祈りながら、主が示される向こう岸へ歩んでいきたいと思っています。



感謝の日々

木村 翠（日本基督教団深川教会）

母校の自由学園での働きのなかで召命が与えられ、本校での学びを始めることとなりました。今年は多くの同学年の仲間に恵まれ、授業も楽しく、あっという間に一学期を終えました。私は授業の内容についていくのに必死でなかなか発言する余裕もないのですが、学友たちは積極的に質問をしたり、ボソッとつぶやいて笑いをとったりしていて、その余裕や造詣の深さに尊敬のまなざしで後ろの席から見つめています。

私はクリスチャンホームに生まれ、教会で育ちました。特にこの数か月は、これまでお世話になった教会での日々を思い出し、育ててくださった方々のお顔を浮かべて過ごす毎日です。お祈りや献金などで今もお支えくださっていることに感謝の思いでいっぱいです。いつかまたもう少し立派になってお目にかかることができるよう、勉学に励んでまいります。また、持病のある私は、職場の自由学園からも神学校からも最大限のサポートをいただいて、なんとか日々の学びを続けています。お支えくださっている皆様に心から感謝いたします。



時が良くても悪くても

木村晋治（日本バプテスト連盟中野バプテスト教会）

神学校の職員として十年以上歩ませていただいたことを、心から感謝しています。しかし、このたび、教会員の高齢化と減少、牧師・神学生の減少など、日本の教会が直面している困難を思うとき、これまでとは異なるかたちで神さまのお役に立てる道があるのではないかとの思いが与えられ、入学いたしました。数十年の紆余曲折の歩みを思うと、不思議なことだと思います。入学して、4か月。今のところ、疲れ果てず、楽しく学んでいます。

この4ヶ月の間も、さまざまな教会の方や他の神学校の方ともお会いする機会がありました。無牧師の教会、牧師を招聘できない教会、神学生の激減で危機にある神学校、などの話を聞きました。しかし、この状況は悲観することではないと思います。結局、すべてのキリスト者は、「御言葉を宣べ伝えなさい。時が良くても悪くても、それを続けなさい」（『テモテへの手紙二』4:2）ということだと思います。時が良くても悪くても、感謝と希望をもって、歩んでいければと願っています。

新入生の声

紙切れに招かれて

中野高宏（日本基督教団駒場エデン教会）

私にとってこの学校への招きの原点は、一枚のビラであつたように思う。受洗直後、所属教会の牧師が私の週報ボックスに本学のビラを入れてくださった。ビラはその後毎年投函されていたが、当時理系の研究者を志していた私は、その紙切れに特別な意味を見出せなかった。その後私は実存的な逡巡を経て文学部へ移り、大学院では聖書学を志すようになった。その道程で与えられた出会いを通して実感したのは、キリストの恵みと牧会との分かち難さである。アキナスの断筆が象徴するように、キリストの恵みは書斎での思索のみによっては覚り得ない。かくして聖書を学ぶことは牧会へ向かうことと一つに重なり、週報ボックスに入れられ続けたあの紙切れが、私に語りかけるようになった。

入学して印象深いのは、教員と学生が対等に言葉を交わす光景である。学びが対話として成り立つこの環境は、牧会の恵みを体現しているように思われる。ここでの研鑽は牧会への備えであると同時に、その恵みのさなかに生きることでもあるのだろう。感謝をもって、一歩ずつ歩んでいきたい。

神の招きに委ねる

林 信一（日本基督教団横浜港南台教会）

日本聖書神学校で二年間、聴講生を経験させていただきました。神学校の礼拝や講義に、この身が洗われるような、新鮮な体験をさせていただきました。そしてこの4月に正科生での入学へと導かれ、今日に至ります。

学生時代の友人達、企業人となってからの友人達、その彼らに神学校へ通う日々のことを話しますと、皆同じように、「牧師になるの?」、「今から?」、そのように問うてきます。既に70歳を超えたわが身を振り返れば、私自身もそのように自問していたところがありました。

一方、これまで所属してきた教会の友人たちは、この高齢者の決断を喜び、祝福してくださいます。その祝福の一つ一つは、神様の右の手左の手となって、私を前へ前へと押し出してくださっています。「行く先を知らずに出て行った」先人のように、神様の招きに身を委ね、不安や迷いから解き放たれて、日々の学びに進んで参ります。その中で誠に嬉しいことは、共に学ぶ学友の皆さんの存在です。人生の後半に、このような機会を備えてくださった神様のご計画を思うとき、震えるばかりの畏敬の念と喜びに満ち溢れます。



昼働いて、夜学ぶ

渡邊孝太郎（日本基督教団三崎町教会）

日本聖書神学校に入学して、無事に前期を乗り越えることができました。本校に導いてくださった主イエス・キリストと学生生活を支えてくださる神保校長先生はじめ、各教授と職員の皆様、並びに菊池後援会長と後援会の皆様に感謝申し上げます。

日本で唯一の夜間神学校での学びは、想像を遥かに超えて大変だと実感致しています。日々の暮らしの糧を得るために働き、疲れ切った身体に鞭を打って神学校に通い、将来の献身のために神学理論と実践を学びかつ身に付けることは、使徒パウロがテント職人として生計を立て、自らを献身者の手本であると示しながら、伝道の旅を続けたことの困難さと尊さを身をもって知ることができる貴重な体験です。

ここ日本聖書神学校で素晴らしき師と出会い、互いに助け合い、切磋琢磨する友を得たことは、これからの学生生活の大いなる糧であり希望です。躓きそうになる時に向けられる見守りと、差し伸べられる救いの手とによって今後の学生生活を全うする勇気を与えられています。

道程は始まったばかりで、これからも多くの困難が待ち受けていると思いますが、主に全てを委ね、道を外すことなく進んでいきたいと思っています。



1年生と基礎科生 左から林 信一、佐藤恵理子、井上美代子、山本ゆかり、木村晋治、小笠原敦輔、中野高宏、木村翠、渡邊孝太郎、位田有香、今田裕之、喜田川ルツ子神学生

日本聖書神学校創立 80 周年記念行事

校長 神保 望

「日本聖書神学校は日本敗戦の翌年である 1946 年、国土全体が廃墟と化した中であって、ただ上よりの導きを仰ぎつつ創設されました。これは、歴史を与えて支え導かれる天地の主なる神による信任と期待を裏切ったことにより生じたのが敗戦の事実であり、これに対処するには真実なる悔い改めと神の国への献身以外に進むべき道のないこと、全ての者を救うのは主キリストの福音以外にはないことを自覚したからに他なりません。」これは、第二代校長である岡田五作牧師（田園調布教会）が創立二十周年を迎えた際に記した神学校創立理念の要約です。

先の大戦から 80 年が経過した現在も戦争は頻発しており、自然災害や経済的格差による希望の喪失は人々の心を蝕んで止みません。神学校も 2008 年竣工の図書館棟・礼拝堂建設により生じた借入金返済のため財政上の苦難を経験しましたが、諸教会の皆様には緊急支援献金等のご支援を頂いたことにより、現在では緊急性を要する危機的状況を乗り越える段階にあります。真の救いは福音による以外にないとする神学校創立の志は、これからも大切にしていかなければなりません。このことを心に刻みつつ記念行事として開

催されたのが、「創立 80 周年記念チェロコンサート」と「創立 80 周年記念の集い」です。

チェロコンサート

5 月 9 日（土）に開催されたチェロコンサートには、82 名の方々がご参加下さいました。出演者は日本基督教団池袋西教会会員であり、2019 年まで東京交響楽団首席チェロ奏者を務められ、現在は愛知県立芸術大学准教授として後進の指導にあたっておられる西谷牧人氏、国内外の交響楽団とソリスト（ピアノ）として共演され、現在は武蔵野音楽大学、東京音楽大学で後進の指導にあたっておられる橘高昌男氏です。お二人はデュオ・リサイタルと題してコンサートを開催しておられるだけあって、息もぴったりと合った素晴らしい演奏をして下さいました。

J.S. バッハの曲目では、各音符に込められた信仰的意味に関する解説を織り交ぜて下さったことにより、各曲に込められた作曲者の思いにも触れることが出来ました。アンコール曲は、パブロ・カザルスが平和への願いを込めて愛奏したことで知られる「鳥の歌」が演奏されました。真の平和を願って創立された神学校の 80 年の歩みを感謝しつつ、これからも福音を宣べ伝える有為な伝道者を養成することが出来るよう、主の執り成しを祈りました。

創立記念の集い

5 月 17 日（日）に開催された創立 80 周年記念の集いには、59 名の方々がご参加下さいました。礼拝堂ナルテックス（拝廊）には、神学校創立当初の建屋や初代校長である金井為一郎牧師（池袋西教会）の満面の笑みを写したパネルを複数枚展示したことによって、来場された方々からは「懐かしい」との感想をいただきました。

後援会役員の村上信男氏（小石川白



山教会）司式による創立記念礼拝では、学校法人聖經学園理事長の吉岡光人牧師（吉祥寺教会）による説教を聴きました。先の大戦によって焼け野原と化した目白の地に神学校が建てられて以来、伝道者養成の取り組みが幾つもの苦難を経て継続出来たのは、愛と憐れみに富み給う主なる神によるお支えと祝福の内に置かれたからです。恵みの数々を思い起こし感謝することが出来ました。また例年よりも多くの神学生が参加した奨学金支給認定式では、後援会会長の菊池公平氏（目白教会）による奨学金制度の説明に続いて受給者の名前が読み上げられ紹介されると、会場からは感謝と喜びに満ちた拍手が鳴り止むことはありませんでした。続いて図書館棟三階の会場（アガペー）に移動し、神学生との交わり・感謝会を開催しました。後援会役員の佐野恵子氏（目白教会）司会による楽しいひとときを過ごしました。参加神学生による自己紹介を通して、学び舎での様子や日々の生活についての理解が深められました。

今年度は同窓会・後援会の協力を得て、神学校創立 80 周年を記念しつつ神学校の歴史を振り返っています。恵みに満ちた歴史を振り返ることにより、未来に向かって継続される神学教育の更なる充実を目指して神学校関係者一同協力し合い取り組みを進めています。これからの神学校の新しい歩みをお覚え下さり、主の執り成しのためにご加禱下さいますと感謝です。



左から橘高昌男氏、西谷牧人氏

第15回献身志願者の集い 報告

教務部長 水谷 勤

「主がお入り用なのです」を主題として、7月19日(日)～20日(月)に第15回献身志願者の集いが行なわれました。多くの祈りによるお支えのなか、全体で63人が参加し、4人の献身志願者をお迎えすることができました。開会礼拝は、神保望校長によりヨハネ21:1～14より「主であると分かっていた」と題した説教により導かれました。特に、「沖へ出よ 深みへと」という賛美歌は、説教の内容と響き合い、多くの方々の心に届いたことと思います。

続いて、宋度榮神学生と石田幸子牧師より、献身の喜びの証しを伺いました。お二人とも、献身志願者の方々に向けて語っていただきました。これまでの歩みを振り返り、神様に委ねて歩まれてきたことや、その働きに召されていることの喜びについて伺ったことが、参加者それ

ぞれにとって将来への大きな励みとなりました。今年も音楽の奉仕に強力なメンバーが与えられました。本校講師の河野和雄先生の指揮、キリスト教音楽院シャロームリンガーズの皆さん、リコーダー奏者、オルガン、ピアノ伴奏者により、素晴らしい賛美が捧げられ、出席者たちの心を豊かに満たしました。「御言葉・音楽・静思の時」とは、聖書の朗読を通して神様の招きを心に受け取り、沈黙の中で主の御声に耳を澄ます時です。参加者一人一人に主が語り掛けてくださったことを信じます。

二日目には、さわやかな朝の空気とステンドグラスの光のなか、礼拝を持ちました。細井茂徳先生により、エレミヤ1:4～10の御言葉より「不完全なままで」と題した説教に耳を傾けました。ありのままの私たちが主が用いてくださる。そ

の内容に、さらに不思議と緊張が解けて、続く分かち合いの時間が持たれました。皆が同じ主を信じ、また召しを信じて語り合う。今年もそのような実に豊かな時が与えられました。後援会のお一人は、年間の中でもこの時間が一番好きであるとの感想もありました。後援会、同窓会、音楽奉仕を担ってくださった皆様に、この場をお借りしまして感謝いたします。そして、引き続き、次年度の入学希望者の歩みを心に留めてお祈りくださいますことを心より感謝申し上げます。



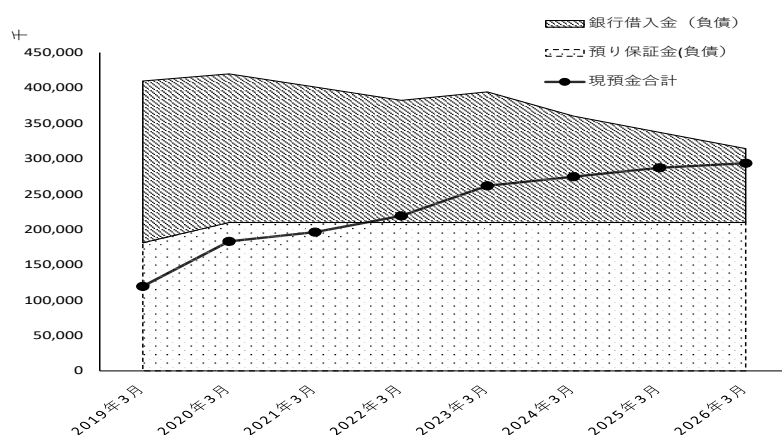
決算報告 2025年度会計について

同窓生、諸教会の皆様には日本聖書神学校のためにお祈りいただき、厳しい状況の中にも関わらず学校運営に多くの献金を捧げてくださり、深く感謝いたします。2025年度の学校会計は、後援会からの1,225万円のご寄付と遺贈・ご寄付を1,553万円いただき、屋根の修繕等に約956万円の支出はありましたが、収益会計から7,501万円の繰入と積立金を活用、修繕と奨学金の積立をおこなうことができました。

収益会計は施設設備利用料が修繕工事の影響で約310万円減収しましたが、他の賃貸料等収入は順調に推移、預り保証金の引当金増額、修繕の積立をおこなうことができました。銀行借入金は順調に返済し、資産総額に対する負債総額の比率は30.3%、学校経営の健全性の目安である30%未満に近づいています。理事会では老朽化した学校施設や設備の修繕、テナントビルの問題など様々な課題に取り組んでおり

ます。昼は働き夜学ぶ、主の召命を受けた学生たちのため、日本聖書神学校は今後もこの地で使命を果たす必要があります。皆様の温かいお祈りとお支えを心よりお願いいたします。

(祖父江健一 総務部長)



区分	部門	科目	2024年 実績	2025年 実績
経常収入	学校	学校計	97,592,044	113,232,612
	収益	収益事業計	158,756,955	156,334,555
		経常収入計	256,348,999	269,567,167
経常支出	学校	学校計	72,464,565	84,691,438
	収益	収益事業計	43,125,030	52,322,197
		経常支出計	115,589,595	137,013,635
		経常収支差引計	140,759,404	132,553,532
		財務収入計	5,086,258	21,057,016
		財務支出計	153,894,803	161,494,048
		財務収支	-148,808,545	-140,437,032
		総合収支	-8,049,141	-7,883,501

前年度繰越資金	80,022,207	71,973,066
当年度収支	-8,049,141	-7,883,501
次年度繰越資金	71,973,066	64,089,565

学校債残高	3,750,000	3,750,000
銀行借入金残高	127,380,929	104,316,929
預り保証金	209,800,000	209,800,000
保証金引当預金残高	155,008,798	160,020,999

奨学金預金残高	28,557,116	39,637,916
学習環境整備積立金	17,428,000	15,428,000

修繕積立金(学校)残高	5,000,000	3,000,000
修繕積立金(収益)残高	10,000,000	15,270,000

Diary 学事報告

2026年4月～2026年8月

- 4月6日 入学始業礼拝、説教「信仰とは真の幸い」神保望校長、正科生7名、基礎科5名、聴講生9名入学、参加者107名
- 4月6日 教授会（第1回）
- 4月7日 前期授業開始
- 4月10日 学報（181号発行）
- 4月10日 後援会通信（80号）発行
- 4月18日 理事会（第303回）
- 4月23日 理事会（第304回）・臨時評議員会（第230回）
- 4月23日 第1回学生自治会総会
- 4月27日 小井沼眞樹子宣教師講演会、参加者30名
- 5月9日 創立記念日
- 5月9日 創立80周年記念チェロコンサート参加者82名
- 5月11日 教授会（第2回）
- 5月15日 理事会（第314回）
- 5月17日 創立80周年記念の集い、開会礼拝説教「破れた世界に響く神の声」吉岡光人牧師（学校法人聖經学園理事長）、後援会報告・奨学金支給認定式、神学生との交わり・感謝会、参加者59名
- 5月18日 後援会役員会、献身志願者の集い準備会
- 5月19日～21日 ペンテコステ立証祈禱会
- 5月25日 図書館運用委員会
- 5月28日 決算理事会（第315回）
- 6月1日 実習教会牧師との懇談会
- 6月15日 教授会（第3回）
- 6月18日 理事会（第316回）
- 6月18日 評議員会（第234回）
- 6月8日・15日 牧会的ケアワークショップ（全校共通総合演習）、講師藤崎義宣先生
- 6月29日 臨時教授会（第4回）
- 7月13日 献身志願者の集い準備会・祈り会
- 7月17日・21日 前期補講日
- 7月19～20日 第15回献身志願者の集い、開会礼拝（神保望校長）、献身の喜び（石田幸子牧師（宿河原教会・72期）・宋度榮神学生）、御言葉・音楽・静思のとき、朝の礼拝（メッセージ：細井茂徳教授）、後援会から（菊池公平会長・西谷譲役員）など、献身志願者4名、参加者63名
- 7月22日 理事会（第317回）
- 7月23日・24日 前期試験日
- 7月24日 教授会（第5回）、卒業論文中間発表会
- 7月27日～29日 アメリカキリスト教史特講
- 8月3日 献身志願者の集い反省会
- 8月17日～19日 卒業生研修会（テーマ「山梨英和とカナダ・メソジスト教会」、同窓会総会、於山梨県甲府市

個人消息

■ 神保望 校長

- 4月8日 菅原真美氏葬儀に出席（聖公会東京聖三一教会）
- 4月19日 池袋西教会で小林祥人牧師就任式に出席（祝辞）
- 5月9日 創立80周年創立記念コンサートに出席（挨拶）
- 5月22日 日本神学教育連合会（JATE）総会・懇親会に出席
- 5月26日・27日 東京教区総会に出席
- 6月14日 隠退教職ホーム「にじのいえ信愛荘」礼拝で説教
- 6月18日 学校法人聖經学園理事会に出席（2027年3月をもって校長職を辞任承認）
- 6月19日 同窓会拡大役員会に出席（献身志願者の集いへの協力依頼）
- 6月22日～24日 新任教師オリエンテーションに出席（熱海）
- 6月28日 田園調布教会朝礼拝・夕礼拝で説教
- 7月12日 カンバーランド長老キリスト教会国立のぞみ教会礼拝（神学校デー）で説教
- 7月19日～20日 第15回献身志願者の集い開会礼拝で説教
- 7月19日 日本基督教団田園調布教会臨時総会（2027年4月から主任担任教師・幼稚園園長として招聘承認）
- 8月3日 日本神学教育連合会（JATE）臨時総会に出席（リモート開催）
- 8月3日 第15回献身志願者の集い反省会に出席
- 8月17日～19日 日本基督教団教師継続教育「夏期研修会」に出席
- 校長として理事会、評議員会、教授会、校務会、人事委員会、図書館運用委員会、後援会役員会、献身志願者準備委員会、

部屋貸し業者との会議に出席

- ・その他適宜人事相談・学生面談を担当して教務執行

■ 荒瀬牧彦 教授／教務部長代行

- 5月25日 カンバーランド長老教会（CPC）日本中会宣教研究所総会
- 5月26日 社会福祉法人ナオミの会第三者委員会
- 5月31日 CPC 海老名シオンの丘教会礼拝説教
- 6月1日～2日 CPC 教職者一泊研修会
- 7月4日 教会音楽祭説教 於 ICU 教会
- 7月28日 礼拝研究会発表 於 JBTS
- 8月4日 賛美歌工房（新歌集を歌う会）
- 8月16日 巣鴨ときわ教会礼拝説教・研修会講演
- CPC 田園教会牧師、CPC 中会運営委員・神学社会委員長・アジア宣教委員、JBTS 理事、日本賛美歌学会運営委員、『礼拝と音楽』編集委員、御茶ノ水スタンディング呼びかけ人、の働き
- 執筆：『日本賛美歌学会紀要』13号、『信徒の友』2026年6月号、『礼拝と音楽』209 - 2号（特集：音楽と礼拝）
- 作品掲載『賛美歌工房歌集 III』

■ 小林祥人 教授

- 4月1日 池袋西教会主任担任教師就任
- 4月14日 日本聖書神学校人事委員会作業部会（於：埼玉新生教会）に出席
- 4月24日・6月5日・7月10日・8月21日 日本聖書神学校人事委員会に出席
- 4月6日・5月11日・6月5日・29日・7月24日 日本聖書神学校教授会に出席
- その他、池袋西教会の主任担任教師としての執務
- 池袋いづみ幼稚園のチャプレンとしての執務

■ 菅原裕治 教授

- 5月9日 東京教区執事按手式出席（推薦者）

- ・日本聖公会管区共通聖職試験委員会委員長を継続（2026年度秋期試験を監修）
- ・日本聖公会東京教区聖職試験委員会委員長を継続（2026年度執事試験を監修）
- ・立教大学レディースクラブ聖書講座講義（前期3回）
- ・東京聖三一教会牧師としての執務執行

■ 細井茂徳 教授

- 5月13日 青山学院大学チャペル礼拝説教（渋谷キャンパス）
- 7月30日 青山学院大学キリスト教理解関連科目担当者懇談会に出席
- ・上星川教会牧師としての執務執行
- ・全国教師会理事としての執務執行
- ・青山学院大学非常勤講師「キリスト教概論Ⅰ、Ⅱ」を継続
- ・同窓会常任役員としての執務

■ 水谷 勤 教授

- 4月5日、5月3日、6月7日、7月5日、8月2日、取手伝道所にて礼拝奉仕（聖餐式）
- 4月26日、5月31日、6月28日、7月26日、8月16日、信濃町教会にて礼拝説教
- ・教務部長としての執務

■ 柳下明子 教授

- 4月15日、6月10日 東京女子大学チャペル担当
- 6月9日 日本基督教団東京教区東支区常任委員会出席
- 6月25日 日本基督教団事務局・年金局「日本基督教団創立記念礼拝」説教
- 6月22日 恵泉女学園評議員会出席
- 8月18日 卒業生研修会講演「歴史に見る説教と牧会」担当
- ・東京女子大学キリスト教入門Ⅰ担当
- ・そのほか日本基督教団番町教会主任担任教師としての執務、日本聖書神学校評議員、日本聖書神学校寮監としての執務